

薩 行 第 1 7 9 号
平成 1 9 年 6 月 1 8 日

第 1 期薩摩川内市行政改革推進委員会委員 様

薩摩川内市長 森 卓 朗

「市政の望ましいスタンスと広報体制に関する提言」に対する現在の取組
状況について（報告）

時下、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

第 1 期の行政改革推進委員会の皆様方におかれましては、市政改革大綱の策定をはじめ、本市の市政改革の基礎づくりの重要な役割を担っていただきましたことに対しまして、深く感謝を申し上げます。

また、第 2 期委員会につきましても、去る 5 月 1 日、8 名の委員によりスタートしたばかりであります。第 1 期委員会の活動内容を参考にしながら活発な審議をいただきたいと考えているところです。

さて、第 1 期委員会の最後に御提言の「市政の望ましいスタンスと広報体制に関する提言」につきまして、山田会長様から、その取組状況について第 1 期委員の皆様へ報告がなされていない旨の御指摘をいただき、改めまして失礼の段がありましたことを、まず、お詫び申し上げます。つきましては、現在の取組状況について、遅くなりましたが御報告申し上げます。

御提言では、記事の取材と広報紙の編集に市民の参画を得られないか、そのことにより、広くなった市域においても市政を身近に感じ、また、市民が相互に理解できるのではないかという御指摘でございました。

本市としても予算措置や庁内での十分な検討も必要なこともあり、まずは、本市の特徴でもある市内 4 8 地区コミュニティ協議会を生かした取組を行ったところです。具体的には、地区紹介のコーナーの掲載をスタートさせ、原稿等はそれぞれの協議会が執筆したものに必要最低限の校正を加えるだけにするなど、「市民による市民のための紙面づくり」の実現に向けて、地区コミ協を通じて実施しているところです。

さらに、市民の声を幅広く拾い上げるため、地区コミュニティ協議会等に情報連絡員を配置し、地域の出来事や情報の提供をお願いしているところですが、なかなか記事が集まらないのが現在の状況です。記事や写真の提供となると専門的な知識が必要で難しいと思われるのではと、その原因を分析しているところですが、記事の書き方や写

真の撮り方についての生涯学習等の講座開設など、将来に向けた市民記者の養成ができないものかと考えております。

次に、編集担当者への市民の登用についてですが、広報紙は前年度中に次年度分の紙面割振りを行っており、また、どのように参画できるのか課題も多く、すぐに反映することは困難な状況と考えております。まずは市民の方々から多くの記事をいただき、これを紙面に反映していく手法を検討していくことが重要ではないかと考えております。

なお、男女共同参画に関する特集を年4回ほど組んでおりますが、紙面構成から漫画、カットまですべて女性50人委員会の委員の皆様にご作成していただき、このようなスタイルを広げることにも一考を要するものと思われま。また、御提言につきまして、広報紙だけで実現していくのではなく、総合的に他の広報媒体も視野に入れながら検討していくことも必要なのではと考えているところです。

最後になりましたが、今回いただきました数々の御提言を真摯に受けとめ、「市民参加の広報体制」づくりに向けて実行可能なものから取り組んで参りたいと考えております。皆様には今後とも引き続き御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、御提言に対する検討結果の報告とさせていただきます。

広報紙の地区紹介コーナー「ふるさと満喫」



ふるさと満喫

下甕地域内川内地区編

声掛け7人の輪つなく稔境の地。高齢化率80%ながら、笑い声の絶えない、自然豊かな内川内コミュニティ協議会を紹介します。

第5回



山あい、清流が光る一番滝。東シナ海へと続く水の道です。



隣へ行くにもこの階段。平地の少ない内川内の生活道路です。

「きゆうは長かひよいやあねえ。あつかあどけんすつとか(今日はいい天気だね。お宅はどうするの。)」

「草がおれてきたでえ、まあ畑に行たてくらあよ(草が茂ってきたから、まあ畑に行ってくるよ。)」

早朝の内川内では、住民のこんな会話が聞えてきます。人口56人、65歳以上が約80%を占めるこの地区は、本市内で一番小さなコミュニティです。

東シナ海と広い空とが混ざり合う水平線を望み、尾岳の斜面、標高約300mの位置に内川内地区があります。梅雨の時期には濃い霧が一带を包み、冬には海から吹き上げる強風におおられ、雪が山肌に沿って上へ上へとほつていくこの地は、まさに「秘境」といえます。自然と暮らす穏やかな日々。商店や自動販売機もありません。こう配の急な階段を上り下りしながら、春はツツブキを摘み、秋は手の収穫をするなど、自然のサイクルに合った生活がここでは

営まれています。

4月〜5月口旬には茶摘みが行われるためこの時期に山々を散策すると、時折香るお茶のにおいに心が癒やされます。また、山道を下り海岸に出ると、山の切れ間から流れる「一番滝」を望むことができます。大木に阻まれ、近くには行くことができませんが、深緑に映え、清らかに美しい滝です。

過疎化が進み、以前行われていた行事はできなくなりまして。しかし、少しでもにぎやかな雰囲気にと、地区コミュニティ協議会では、カノコヨリ畑や桜並木整備事業など「花いつばいのまちづくり」を目指して活動しています。ひざの痛みや病気を抱えた人はたくさんいますが、つえを突きながらみんな声を掛け協力し合い、地域のために頑張っています。

昔ながらの良さが今に思づく内川内。住民の山下アミエさん(76歳)は言います。

「ここでは自然が親。内川内の良さは全部この土に染みこんでいるよ。」と。

文化財・イベント

内川内は男性19人、女性37人と女性が多い地区です。そのためコミュニティ協議会の役員も女性が多数を占めており、会長ももちろん女性。男女共同参画社会の先駆けといえます。また、地区に伝わる郷土芸能「手踊り」も女性を中心とした華やかな構成になっています。以前はそのほかに棒踊りなどがありましたが、残念ながら途絶えてしまいました。せめて今ある手踊りは後世に残していきたいと、毎週土曜日に郷土芸能教室が開催され、二味線や太鼓、踊り、内川内数え歌などを若い世代が学んでいます。

春になると、自分たちで手入れした桜並木や山々を飾る色とりどりの山桜を眺めながらの花見の会、秋には住民のほとんどが参加する敬老会が開催されます。ここではタオルをバトン代わりに回し、一人ずつ踊る恒例の「マワイ踊り」が行われ、ベテランの方々の手踊りが披露されます。このように、人は少なくても、いつまでも明るく元気な人が集う内川内であり続けたいものです。



マワイ踊りに盛り上がる花見の会。



三味線と太鼓にのせた華やかな舞。

■問合せ先

内川内地区コミュニティ協議会

■所在地

〒896-1412
下甕町瀬々野浦 1739 番地
☎ 09969 (5) 0941

- 発行 薩摩川内市役所
- 編集 本庁企画政策部広報室
〒895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町3-22
☎0996 (23) 5111 ☎0996 (20) 5570 閉庁日および時間外☎0996 (23) 5115
メールアドレス koho@city.satsumasendai.lg.jp
- 各支所

樋脇支所	〒895-1292 樋脇町塔之原1173	☎0996 (37) 3111	☎0996 (37) 2252
入来支所	〒895-1492 入来町浦之名33	☎0996 (44) 3111	☎0996 (44) 3117
東郷支所	〒895-1106 東郷町斧洲362	☎0996 (42) 1111	☎0996 (42) 0767
祁答院支所	〒895-1595 祁答院町下手67	☎0996 (55) 1111	☎0996 (55) 1021
里支所	〒896-1192 里町里1922	☎09969 (3) 2311	☎09969 (3) 2912
上甕支所	〒896-1201 上甕町中甕481-1	☎09969 (2) 0001	☎09969 (2) 1490
下甕支所	〒896-1696 下甕町手打819	☎09969 (7) 0311	☎09969 (7) 0753
鹿島支所	〒896-1392 鹿島町蘭牟田1457-10	☎09969 (4) 2211	☎09969 (4) 2672
- 災害広報電話 ☎0996 (23) 9111
- 生活情報電話 ☎0996 (22) 7543
- ホームページ <http://www.city.satsumasendai.kagoshima.jp/>

ごみのポイ捨ては絶対によめよう!!

